

これからの季節、お盆、お彼岸と、お墓参りをする機会が多くなるかと思えます。

仏教では、お墓はお釈迦さまがお亡くなりになった後、その御遺骨を祀り、仏舎利塔（ぶっしゃりとう）を建立して、礼拝の対象とし、信仰を深めていったのが始まりとされています。

もちろん、日本では仏教が伝来するはるか以前の縄文時代からお墓は存在していたと考えられています。亡くなった仲間をうち捨てておくのでは無く、埋葬する。これは人間ならではの行為かと思われます。

さて、お墓は私たちにとってどのような意味がある場所なのでしょう？

一つは、故人に出会う場所として……。私たちにとってお墓は故人を最も身近に感じられる場所では無いでしょうか？

もう一つは、自分自身の存在を考える場所として……。場合によっては、数代前のご先祖様の遺骨まで祀られているお墓もあるでしょう。新たにお墓をつくられた場合でも自然にご先祖様を招いて祀ることになります。私たちが今ここにあるのは、両親が出会ったから。そしてその両親が出会ったのはそのまた両親がいたから。延々と続く自分に至るいのちのつながりを意識することの出来る場所といえるのです。

お釈迦さまは、さまざまに関わり合う条件のことを「縁」といい、関わり合い支え合いながら存在するという世の中の理を「縁起」の法で示されました。

私たちはまさにご先祖様からの縁によって存在しているのです。

お釈迦さまのご遺徳を称える目的で建立された仏舎利塔を起源とするお墓が、お世話になった故人を身近に感じ、ご先祖様からのつながりによって今の自分があるということ意識する、まさにお釈迦さまのお示しになられた「縁起」の法を観じることのできる場所であるということなのです。

お墓の前で手を合わせながら、自身の縁について思いをはせてみてはいかがでしょうか。